

NO DRUGS

薬物乱用のない社会を

○ 薬物情勢

令和7年中の、佐賀県内の薬物事犯の検挙人員は、

大麻事犯 ～ 検挙人数 49人（前年比+13人）

覚醒剤事犯 ～ 検挙人数 33人（前年比+18人）

でした。

覚醒剤事犯の検挙人員は、前年比+18人と倍増し、大麻事犯の検挙人員は前年比+13人と増加傾向に歯止めがかからない状況にあり、新たに施行された施用罪でも検挙しております。

年齢別では、覚醒剤事犯は、40歳以上が全体の約61%を占めるなど中高年の検挙者が多く、大麻事犯は、10歳代13人（26.5%）、20歳代24人（49%）、30歳代11人（22.5%）、40歳代1人（2%）と、30歳未満が全体の約76%を占めるなど若年層の検挙が多い状況です。

○ 主な薬物の種類

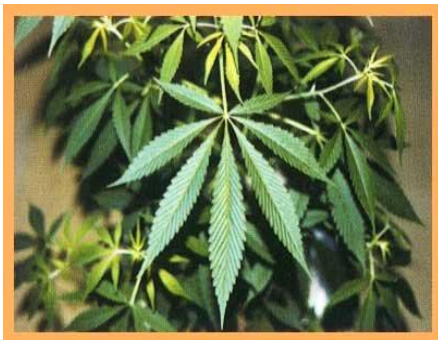
大麻（THC）

日本では、主に乾燥大麻「マリファナ」、液状の大麻「大麻リキッド」が流通しており、他にも大麻グミや大麻クッキーなどがあります。

大麻草には、120種類以上の「カンナビノイド」と呼ばれる特有の成分が含まれていて、その内「テトラヒドロカンナビノール（THC）」が、幻覚作用を有し、神経回路に影響を与えることから麻薬に指定されています。

大麻を使うと、抑うつ、興奮、錯乱、眠気、パニック発作などの他、聴覚・触覚の鋭敏化、短期記憶障害などの作用が現れ、長期乱用により、統合失調症やうつ病の発症リスク増加、記憶障害などが起こるおそれがあります。

また、使用者の多くが、より依存性の高い薬物に手を出すようになることから、大麻は薬物乱用への入り口となる「ゲートウェイドラッグ」と呼ばれています。



覚醒剤

覚醒剤は、白色の粉末や無色透明の結晶で、無臭でやや苦みがあり、常習者等の間では「シャブ」、「アイス」、「S（エス）」、「スピード」等の隠語で呼ばれています。

覚醒剤は、神経回路に作用し、強い興奮状態を引き起こし、一時的に、眠気や疲労感がなくなり、頭が冴えたような感じになります。

しかし、効果が切れると、その後は激しい脱力感、疲労感、倦怠感に襲われるため、再び、覚醒剤に手を出すなど乱用を繰り返すようになります。

また、覚醒剤の影響で、幻覚、妄想、猜疑心、不眠、抑うつ、パニック障害などが生じ精神錯乱の状態になったり、嘔吐、不整脈などの症状が出ることもあり、大量摂取により急性中毒で死亡することもあります。



○ 薬物乱用が心身・社会に及ぼす影響

覚醒剤をはじめとする違法薬物は、所持・使用・譲り渡し・譲り受け等の行為が法律で厳しく禁止されています。

これは、薬物乱用に陥ると、本人の心身を台無しにするばかりではなく、薬理作用により幻覚や妄想等に襲われ、殺人、強盗、放火等の凶悪な犯罪や重大な交通事故等を引き起こすおそれがあるからです。

「疲れがとれる」「気分がよくなる」「痩せる」などといった誤った情報から安易に違法薬物に手を出してしまえば、薬物依存に陥り抜け出せなくなり、一生を棒に振ることとなってしまいます。

「自分は大丈夫」「1回だけなら大丈夫」という過信は禁物です。

健全な社会をつくるために「ダメ。ゼッタイ。」を合い言葉に社会全体で薬物乱用のない環境づくりを進めていきましょう。

○薬物に関する問合せ、相談

・最寄りの警察署、交番、駐在所または警察本部警察相談室

(電話0952-26-9110または#9110)